



Contents

- 02 イベントリポート1
咸臨丸フェスティバル
- 04 イベントリポート2
ライトアップ！浦賀ドック
- 06 イベントリポート3
浦賀歴史研究所連続講座 ほか

浦賀ドックには

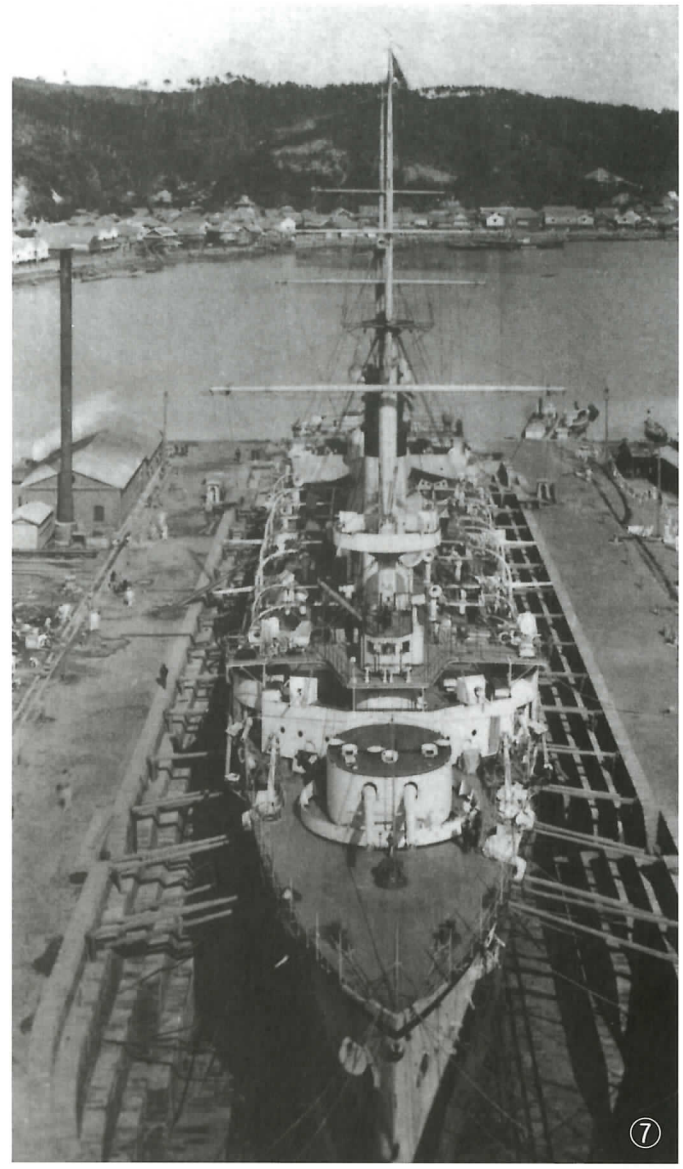
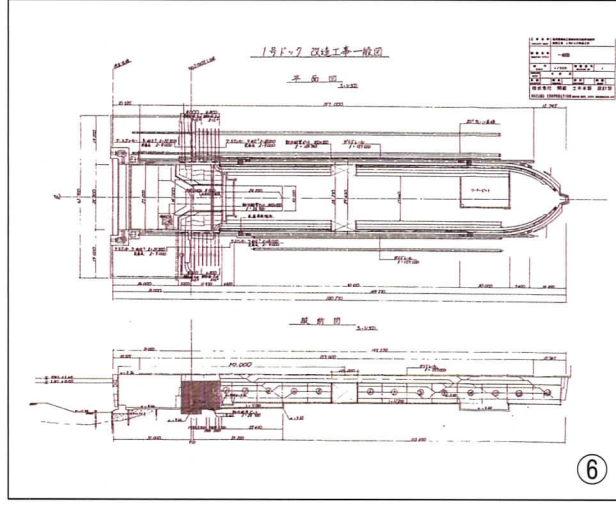
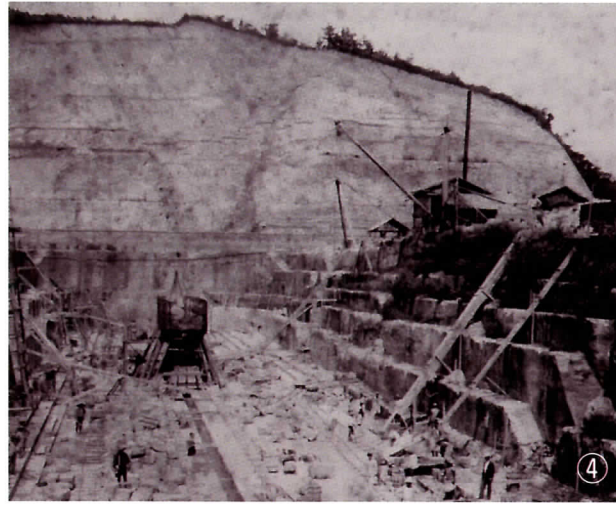
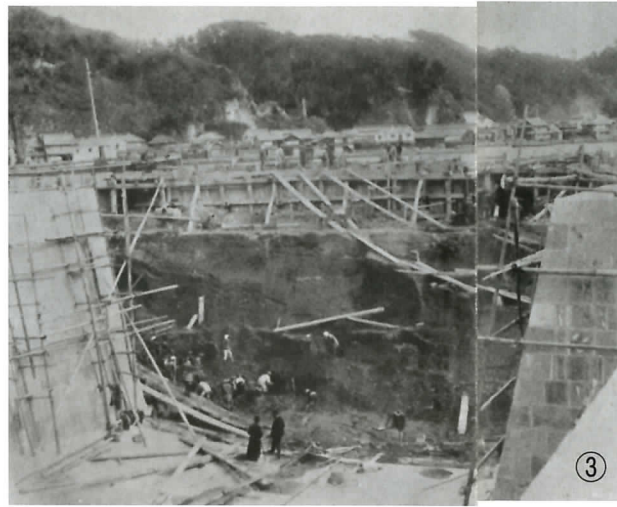
歴史的価値の高いレンガドックをはじめ、産業遺産が集積しています。

レンガドック

レンガ造のドックは、日本に2基しか存在しません。もうひとつの川間ドックは、現在ゲート(扉船)が開放され海と一体になっているため、ドライドックとしての形を残すものは、この浦賀ドックが日本で唯一になります。

第59回レンガドック活用イベント（令和元（2019）年5月25日（土）開催）

咸臨丸フェスティバルに参画



令和時代初のレンガドック活用イベントは、例年同様に第21回を迎えた咸臨丸フェスティバルへ参画する形での開催となりました。

明治32(1899)年に竣工したレンガドックは今年で120年の節目を迎えたため、今回のイベントではドックの見学会に加え、過去のレンガドック活用イベントで使用した資料などを集め、今までの活動実績が見られる「ワンデューミュージアム」を実施しました。

①ドック底を取めた写真パネル。②参画した咸臨丸フェスティバルでは、機関工場横にステージを設置し、地元中学校の吹奏楽コンサートなどが多数開かれた。③ドックゲート部を掘削中の写真。④レンガドック建造中の写真。現在ドックがある場所にはもともと山があり、建造にあたり山を人の手で切り崩し現在の形が出来上がった。⑤練習帆船日本丸の進水式で、支綱切断を美智子妃殿下(当時)が行われた。⑥レンガドックの改造工事図面。明治32年の竣工時点で全長148m、最大幅28.2m、深さ82mであったが、昭和58年に28mの延長が工事行われた。⑦明治33年に軍艦「吾妻」がドックへ入った(入渠)ときの写真。左奥に見える煙突を持った建物はポンプ所で、ポンプが格納されている地下部分は現在も当時のまま残っている。

浦賀ドック120年のあゆみ(抜粋、「浦賀船渠60年史」「浦賀・追浜100年の歩み」より)

西暦	主なことがら
一八五三	幕府が浦賀に造船所を設置
一八五四	浦賀で鳳凰丸が建造される
一八六〇	浦賀に水兵屯集所設置
一八五五	咸臨丸が浦賀で船底修理を受け、アメリカへ
一八九五	船渠設計のため、ドイツ人技師ボーケルを雇用
一八九七	浦賀船渠(株)設立
一八九九	1号ドック(レンガドック)竣工
一九〇〇	操業開始
一九〇二	石川島造船所を買収し、川間分工場に
一九〇七	駆逐艦長月竣工
一九〇八	本工場事務所全焼
一九一〇	浦賀町立実業練習学校を見習工委託学校と改め、正式に工員養成を開始
一九二二	軽巡洋艦五十鈴竣工
一九四〇	浦賀工場が海軍監理工場に指定される
一九四三	浦賀工場を浦賀造船所と改称
一九四四	皇太子殿下(現在の上皇陛下)が造船所をご視察
一九五七	創立六〇周年記念式典
一九六〇	日米修好一〇〇周年記念の咸臨丸出航の碑が浦賀愛宕山公園に建つ
一九六一	記念館三笠復元完成記念式典挙行
一九六二	玉島ディーゼル工業(株)との合併で浦賀重工業(株)に社名変更
一九六六	青函連絡船十和丸竣工
一九六九	住友機械工業(株)と合併、住友重機械工業(株)設立
一九八二	護衛艦はつゆき竣工
一九八三	ドック改造
一九八四	練習帆船日本丸進水、皇太子殿下ご夫妻(現在のの上皇陛下ご夫妻)ご臨席、美智子妃殿下支綱切断、日浦賀に回航
一九九七	練習船青雲丸進水、皇太子殿下ご夫妻(現在の天皇陛下ご夫妻)ご臨席、美智子妃殿下支綱切断、即日浦賀に回航
二〇〇二	第四次咸臨丸フェスティバルに協賛、練習帆船日本丸が入港。入場者六万人
二〇〇三	浦賀艦船工場(浦賀トック)閉鎖 護衛艦たかなみ竣工、浦賀工場最後の建造艦

浦賀歴史研究所 2019年連続講座（令和元年6月18日(火)、25日(火)、7月9日(火)開催）

レンガドック竣工
120年記念

日本一のレンガドックと浦賀



▲各回とも満席に近い来場があった。

レンガドックの保存を目指し、産業遺産に係る歴史的資産の調査、史資料の収集などの活動を行う有志の団体「浦賀歴史研究所」は、定期的に浦賀の町の歴史について調べたことなどを発表する講座を開いています。

今年の講座では、レンガドックが竣工120年であることにちなみ、浦賀の町と造船所をテーマに開催されました。

第1回(6月18日)「幕府海軍と浦賀」

(講師:東京大学名誉教授 安達裕之氏)

日本で初めて太平洋横断を果たした咸臨丸が渡米前に修理を行ったのが浦賀であるが、それを皮切りに浦賀の町が造船の町になるまでの経緯を紐解いた。

第2回(6月25日)「浦賀船渠の誕生までの歩み」

(講師:浦賀歴史研究所 山本詔一氏)

造船の町として発展を始めた浦賀の町に、現在の工場の前身である「浦賀船渠」が開設される頃の国の情勢や、浦賀がドック建造に適した土地であることを解説した。

第3回(7月9日)「浦賀のレンガ構造物とレンガドック」

(講師:横須賀市教育委員会 野内秀明氏)

猿島砲台を含む東京湾要塞におけるレンガ構造物の特徴を取り上げ、レンガドックとの共通点などについて解説した。

次回のイベント情報

10月13日(日) 浦賀工場OBによる講演&ドック見学会

ドックに勤めた方の生の声を聞くことができます。今回のテーマは「養成工」。ドックが出来た当時から多くの職人を輩出した職業学校について紐解きます。また講演後にはドックの底に下りることができる見学ツアーも開催します。

時間 13時～16時／場所 住友重機械工業株式会社浦賀工場（横須賀市浦賀4-7）内 レンガドック活用センター及びレンガドック周辺／事前応募制。詳しくは市ホームページ等をご確認ください。／同日は会場周辺で「よこすか街なかミュージックフェスティバル」「浦賀特別展」などのイベントも開催されます。

11月23日(土) レンガドック120周年 浦賀奉行所開設300周年記念シンポジウム

今年はレンガドックが出来てから120年の年。その締めくくりにレンガドックの価値を再確認し、今後の展望などについて各分野の専門家が語ります。

時間 13時～16時／場所 横須賀芸術劇場・小劇場ヨコスカベイサイドポケット（横須賀市本町3-27）／入場自由。／11月24日(日)にシンポジウム来場者限定のドック見学会があります。

本誌に
関する
お問合せ

レンガドック活用イベント実行委員会事務局（横須賀市都市部市街地整備推進課内）
〒238-8550 横須賀市小川町11 / 電話 046-822-8526 / FAX 046-826-0420 / E-mail ur-ci@city.yokosuka.kanagawa.jp

発行：レンガドック活用イベント実行委員会